



清流NEWS

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1 Tel 042-514-8309
発行日 1月・4月・7月・10月

Vol. 121
発行
日野市
環境共生部
緑と清流課

10月は環境月間です!

日野市は河川、用水、湧水などの水域が約15%を占め、市の北側を多摩川、市の中心を浅川が流れています。また、日野台地の崖線と多摩丘陵方面には豊かな緑が残されています。程久保川や豊富な湧き水もあり、「水の郷 日野」にふさわしい財産です。

この多くの資源が田畑を潤したり、数多くの生きものを育む場所にもなっています。また、人々が憩いの場として親しんだり、子どもたちが魚とりや虫取りなどで楽しんだりすることも多いはず。豊かな自然は、四季折々の美しい景観を生み、豊かな心を育てます。

元号が令和となった初年度の環境月間は「水を守り、緑を育てひとが生きるまちひの」をテーマに、日野市に生息する生きものや水と緑といった自然を知っていただくため、さまざまな催しを企画しています。身近な生きものと共生できる日野の豊かな自然を大切にしていきたいと思います。

緑と清流ポスター展

市内の小・中学生たちが、水辺や緑をテーマに描いたポスターを展示します。

【日時】〔小学生の部〕10月2日(水)～10月11日(金)
〔中学生の部〕10月15日(火)～10月25日(金)

【場所】市役所本庁舎1階

日野第一中学校2年 末吉 柚子



中学生の部 最優秀作品

豊田小学校3年 矢部 右天



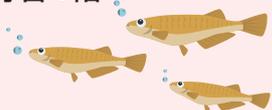
小学生の部 最優秀作品

ミニ水族館

市内の用水や河川に生息する魚や生き物を展示します。

【日時】10月1日(火)～10月25日(金)
午前8時30分～午後5時15分

【場所】市役所本庁舎1階



日野用水クリーンデー

日野用水上堰の東光寺から日野駅までの区間を、地元自治会・用水組合の協力をいただいて、用水路に捨てられたごみを清掃します。

【日時】10月20日(日) 午前10時～11時

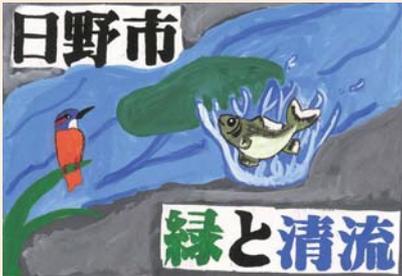
【集合】午前9時45分

【集合場所】①よそう森公園
②栄町四丁目バス停付近
③新町一丁目22番地先(月極駐車場付近)

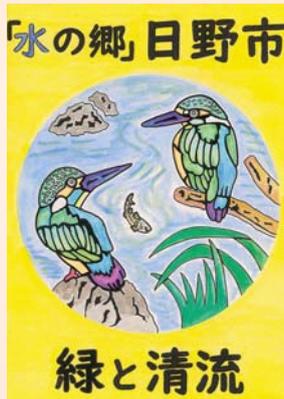
スター

日野市環境月間の行事として、市内の小・中学校の子どもたちへ緑と清流に関するポスターを募集しました。令和元年度も多くの応募がありました中から選ばれた作品です。身のまわりの水辺や緑への子どもたちの思いが描かれています。

小学生の部 優秀作品



日野第八小学校6年 井上 朋香



日野第六小学校5年 勝川日菜子



東光寺小学校6年 加藤 尚也



東光寺小学校6年 関口 葉月



日野第八小学校6年 梶原 梨瑚



平山小学校6年 鈴木 彩香



東光寺小学校6年 小澤 結愛



南平小学校6年 長門菜々美



東光寺小学校6年 佐々木理音



東光寺小学校6年 保谷 美羽



東光寺小学校6年 野口 大地



仲田小学校5年 城所 虹空



仲田小学校5年 木崎野乃花



滝合小学校6年 大和田理子

令和元年度

緑と清流水

中学生の部 優秀作品



日野第二中学校2年 原野谷来未



日野第二中学校2年 大橋 美音



日野第二中学校2年 服部 柚子



日野第三中学校2年 田附 衣虹



日野第二中学校2年 須藤 壮良



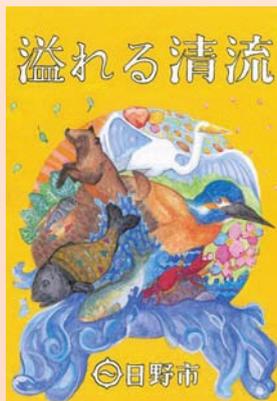
日野第二中学校2年 中重 優和



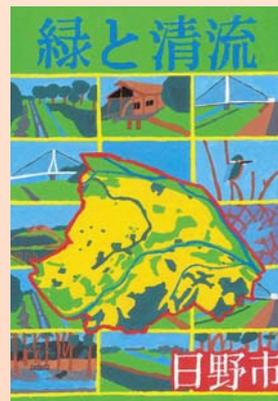
日野第一中学校2年 小林 花凜



三沢中学校2年 中村 渚



日野第三中学校3年 橋本 理音



大坂上中学校2年 長谷川裕平



大坂上中学校2年 永井 陽翔



大坂上中学校2年 山口 空良



平山中学校2年 ストップカ凜



平山中学校2年 相澤 里穂

用水守を募集しています

日野市では用水守を随時募集しています。用水守制度は、市内の用水路・河川・湧水地を公民協働により維持管理活動をしていただく制度です。市内の用水路、河川、湧水地の清掃をボランティアにて行ってくださる方を、随時募集しています。

- ◆**活動内容** あらかじめ活動範囲を決めてもらい、清掃・保全・緑化等の活動をしていただきます。
- ◆**登録資格** 個人・企業・自治会・市民団体等
- ◆**市の対応**
 - ・ボランティア保険への加入
 - ・ボランティア袋の配布
 - ・登録証・腕章の交付

問い合わせ：緑と清流課 水路清流係

8月25日(日)に年に一度行っている用水守懇談会を実施しました。用水守懇談会は、各用水組合の方々や日野市で登録している用水守の方々に参加いただき、用水守の方々の活動報告や、意見交換会等を致しました。日野市の用水を守っていくため、より良くしていくために多くの貴重な意見をいただきました。



用水守懇談会の様子

用水守懇談会を実施しました

浅川潤徳水辺の楽校

浅川で遊ぼう3「浅川の源流探検」

例年7月下旬に行われている浅川潤徳水辺の楽校推進協議会のイベントに、「浅川の源流探検」というものがあります。これは、子どもたちを連れて八王子市の上壺分方町にある浅川の渓谷で、飛び込みやがさがさ等の水遊びをして楽しむイベントです。

今年度も7月20日(土)に開催が予定されていましたが、悪天候の影響で川の流れが強くなり、子どもたちの安全を最優先し、中止とさせていただきます。

浅川で遊ぼう4「思いっきり水遊び」

「浅川の源流探検」とは打って変わって、8月3日(土)に開催された浅川で遊ぼう4「思いっきり水遊び」は、雲一つない快晴に恵まれ、水遊びをするには最高の環境となりました。このイベントは、ふれあい橋付近の浅川で、子どもたちや保護者の方々が一緒になって泳いだり、生き物を採取して観察してみたりと、水辺で自由に遊んで楽しむものとなっています。また、川底の一部を掘り、そこで飛び込みをして遊んだりしました。

当日は気温が高かったため、予定より少し早めの終了となりましたが、今年も多くの子どもたちや保護者の方々に参加していただき、大いに盛り上がりました。



水の中の生き物を探す参加者の様子



ボートで遊ぶ子どもたち



令和元年6月16日(日)に万願寺の浅川スポーツ公園外周において、「第22回コスモスアベニュー事業」(コスモスの種まき)を各自治会や団体の皆さんと一緒にを行いました。当日は市長や環境まちづくり委員の方々も一緒に、コスモスの種まきに参加していただきました。



今年(今年)は雨の日が続く、コスモスがすくすくと成長しています。コスモスの管理日には、参加された皆さんが水やりや除草作業を行いました。皆さんの思いが通じて、丘の上ではミニコスモスの「ビッキーコンパクトミックス」、その他のところでは「センセーションミックス」が順調に見ごろを迎えようとしています。是非皆さんも、この秋風に揺らぐコスモスを鑑賞していただけたら幸いです。



令和元年8月1日(木)に、日野工業高等学校のボランティア活動として、クリーンセンター近くの多摩川右岸河原に繁茂しているシナダレスズメガヤ(外来種)の除草を行いました。当日は、気温が37・6度の猛暑でしたが、日野工業高等学校の先生と生徒を合わせて約200名と多くの方々にご参加いただき、合計で約1tものシナダレスズメガヤを除草することができました。



ご協力くださいました皆さま、ありがとうございました。



緑の募金

ご協力ありがとうございます

(公財)日野市環境緑化協会と市の共催で、4月から5月までを推進期間として緑の募金の活動を行わせていただいております。

この募金は、東京緑化推進委員会へ納入後、その45%が(公財)日野市環境緑化協会に還元され、まちの身近な緑化として、公共施設等の花壇用花苗購入等に活用させていただいております。

なお、金額等の詳しい結果につきましては、広報ひのにて掲載させていただきたいと思っております。

問い合わせ：
緑と清流課 公園緑政係



清流ニュースにひとこと

清流ニュースに、「こういう記事を書いて欲しい!」や「こんなイベントを企画して欲しい!」など、皆さんからのご意見・ご要望を募集したいと思います。

次号以降の清流ニュースの編集の参考にさせていただきます。

宛先 (お手紙、FAX、メール等をお願いします)

日野市役所 環境共生部 緑と清流課 清流ニュース担当宛て

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

FAX 042-583-4483 メール seiryu@city.hino.lg.jp

第4回 アユまつり

令和元年8月11日（日）浅川ふれあい橋下広場にて、「第4回浅川アユまつり」を開催いたしました。当日は、天候に恵まれ、時節柄熱中症等の心配もありましたが、大きな事故や怪我などもなく無事終えることが出来ました。協賛いただいた日野市商工会、日野市観光協会はじめ、多くの方々にご協力いただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。



伝統漁法の披露・体験、釣り・魚捕り体験など河川における体験型の催しとして平成28年度にはじまったこの「浅川アユまつり」も4回目の開催となり、回を重ねるごとに来場者数も増え、今年は約9,500名の来場者を数え過去最高の人出を記録いたしました。

多摩川漁協の協力で行った伝統漁法体験、ピストン釣り教室、魚のつかみ捕りには、500名余りの募集に対し、1,000名近い申し込みがありました。川遊び体験に対する関心の高さが伺えた反面、受け入れ態勢の都合上、約半数の方々には残念な思いをさせていただきました。アユまつりでの受入数を増やすことは、現状難しいのですが、今後は「釣り教室」など漁協と連携して、新たな体験の場をつくり、たくさん子ども達が参加できるよう充実させていく予定です。



こうした催しを通して、日野市の魅力「豊かな自然・水環境」をたくさんの方々に伝えられるよう引き続き頑



張りたいと思います。また、これらをきっかけに皆さんが川の自然や釣りや魚捕りなど川の遊びに興味を持っていただけたら幸いです。

伝統漁法体験

令和元年8月11日（日）に開催した「第4回浅川アユまつり」は、多摩川、浅川での漁業振興を目的としており、アユまつり後も多摩川や浅川で遊んでもらうため、多摩川漁協と協力して魚とのふれあい、魚とり体験を実施しました。



釣り体験では、50名の子ども達がピストン釣りを体験しました。川に膝までつかり、短めの竿の先端を水の中に入れ、前後に竿を動かします。短い時間でしたが6、7匹の魚が釣れた子どももおり、笑顔が見られました。

また、特設プールでは、400名が魚のつかみ取りをしました。つかみ取りの目玉は「うなぎ」です。皆歓声を上げ、魚を捕まえていました。

さらに、今年は「伝統漁法体験」を行いました。漁協のおじさんが投げた網を抑え、魚が逃げないようにお手伝いしてもらいました。また、中学生は、実際に網を投げました。眼鏡漁法では、箱眼鏡を使い泳ぎながら水中の魚をモリで狙いました。なかなか難しそうでしたが、子ども達は夢中で頑張っていました。

それぞれ、貴重な体験ができたのではないかと思います。これをきっかけに、川に足を運んでもらえるととてもうれしいです。



浅川流域連携

子どもの交流事業

日野市と八王子市は、両市内を流れる浅川で、例年連携事業を行っています。その一環として、今年度の8月8日(木)に「子どもの交流事業」が行われました。

「子どもの交流事業」では、日野市、八王子市に加え、浅川が合流する多摩川下流に位置する川崎市の3市在住の小学生を参加対象としています。事業としては、事前に募集をかけて集まった子どもたちが浅川で水生生物の採取・観察をしたり、ライフジャケットを



着て川で遊んだりする中で、3市の子どもたち同士が触れ合うことや、川に親しんでもらうことを目的としています。今年度は、八王子市にある夕やけ小やけふれあいの里で開催しました。夕やけ小やけふれあいの里は敷地内に浅川が流れており、今回はそこを舞台に活動しました。当日は水生生物に詳しい職員や専門家の方がおり、子どもたちはその場で抱いた疑問を聞き、水生生物への関心を高めていきました。このような活動をきっかけに、子どもたちに川を守っていくことの大切さ等が伝わり、また、夏休み中の良い思い出となれば幸いです。



水辺のある風景 日野50選 選ばれた水辺を紹介しします

⑧ 大福寺下公園―桜並木の親水路

京王線平山橋 址公園駅南口広場付近には昔、大福寺という禅宗の寺がありました。鎌倉武士平山季重が晩年この地で過ごし、この寺を開基したといわれています。明治6年廃寺となり大福寺の建物、日奉地藏堂など一部が宗印寺に移転されています。その寺の名に因んだ公園です。



大福寺下公園



花筏

水遊びやザリガニ捕りの場となっています。桜が、散り始めると花筏を見ることが出来ます。

⑨ 南平の田んぼのある風景

浅川そばの平山用水を引きこんだ唯一の田んぼです。この田んぼでは田んぼの学校など3団体が米作りをしています。一昨年の秋収穫が終わると宅地造成が始まり、土砂が運び込まれて、全ての田んぼが無くなりました。今年から近くの畑を水田に変え、公民館主催の南平田んぼの学校として再開しました。



南平田んぼの学校



田植え

田んぼもこの源風景もここに集まる私たちの大切な財産です。平山用水を守っていく義務があるでしょう。

季節により田んぼに映る丘陵のシルエットや人々の賑やかな活動は、まちの大切な風物詩でもあります。また田んぼや畑は水循環にとっても重要で、田畑の消失は都市災害を起こすなど自然の循環機能を破壊することになります。田んぼには、水が必要です。お米1リットルを収穫するには、約6,000リットルの水が必要とされています。



カラスの不思議

〈親子関係は続く?〉

2011年のこの連載でカラスを取り上げた際、カラス科は日本で12種が記録されていること、オナガやカケスのように色彩が美しく、わかりやすい種もいるが、黒いカラス類は識別が難しいこと、ハシブトガラスやハシボソガラスのような身近なカラスでさえ「どのようにペアができるのか?」「どんな雄がもてるのか?」はわかっていないこと、などを紹介しました。

親子関係についても、身近なカラスでさえよくわかっていません。野鳥の生存率は高くないので、番(つがい)関係や親子関係を長く続けられないはず、関係性は繁殖期だけというのが一般的です。と



ハシボソガラス：奥の1羽は瞬膜を閉じたところ(同種はお辞儀をしながら鳴くが、その際に瞬膜を閉じるよう)

ところが、ハシブト・ハシボソともに、番関係は互いが生きていく限り続くらしいほか、翌年、ペアが巣作りを始めるまで親子関係が続いた観察例があります。ムクドリやスズメなど、非繁殖期に集団ねぐらを形成する小鳥の場合、集団になってもそれぞれに個性はありませぬ。秋冬にねぐらに向かって飛んで行くカラス類を見ていると、「2羽」「数羽」「数羽以上の群れ」という3パターンが見られるので、2羽の場合は雌雄のペア(繁殖に失敗して子どもがない場合と、すでに子どもが自立した場合がありうる)、数羽の場合はペアとその子どもたち、数羽以上で群れているのは、まだペアになれていない若いカラスたち(*)であることが多いのではないかと

と私は考えています。

〈白目のツミン〉

黒いカラスたちは、時々目が白く見えます。これは瞼ではなく、瞬膜が白いためです。瞼と眼球の間で閉じられる瞬膜は脊椎動物の進化の中で両生類、爬虫類、鳥類と受け継がれてきました(哺乳類の場合に残存器官として残っているものの、閉じる筋肉が退化して機能しない)。瞼を閉じなくても瞳を保護できるので、例えば、カワセミでは水面に飛び込んで魚を捕ることも言われる急降下で鳥を狙うことを可能にしています。瞬膜はほとんど透明なので、閉じてもわかりにくいのですが、なぜか黒いカラス類は瞬膜が白く、閉じると目立つのです。

〈落として割って食べる?〉

食べ物隠して蓄えておく貯食は、カラス科に共通した習性ですが、くるみや貝のような硬いものを落として割って食べる行動は、なぜか、ハシボソだけによく見られます。自動車を利用して硬い実を割っ



ハシボソガラスがくるみをくわえて舞い上がる(ある高さまで来ると、硬い石の上などを狙って落とす)

て食べるのもハシボソだけでハシブトではまず見られませんが、習性はよく似た2種です。外見はよく似た2種ですが、習性はよく似た2種です。2種の識別には声がよくとされませんが、私の師匠故川田潤はギャグを添えてそれを説明していました。曰く：声が濁っているのがハシボソガラスで、濁らないのがハシブトガラス、もっと澄んだ美しい声は：マリア・カラス。

* 生きのびた野鳥は、生まれた翌年には繁殖できるようになるのが一般的だが、ハシブトやハシボソは1年を経ても繁殖できず、ペアになれない若いものが群れをなしているらしい。

文 (公財)日本野鳥の会
主席研究員 安西英明
写真 金子精一

あどがき

10月に入り、令和元年度も残り少なくなってきました。夏の暑さを乗り越えたと思ったら、もうじきに冬の寒さが訪れるという季節の境でもあります。そのために衣替えの準備等、少し忙しい時期になります。しかし、四季によって景観が変わるといのは日本の良いところです。夏の青々とした草葉が紅葉によって色を変える様は、何とも風情あるものです。

さて、日野市の10月は環境月間です。市では自然を守り、育むことを再認識すると共に、自然環境に触れ合うことの大切さを感じるために様々な活動を行っていく予定です。中でも、市内の小中学校に通う子どもたちが描く緑と清流ポスターは圧巻です。自然を守っていくという共通認識の中に、ひとりひとりの個性を観ることが出来ます。子どもたちの絵を観て、環境に対して皆様はどう考えるでしょうか、市役所本庁舎にお立ち寄りの際は是非ご覧になってください。(大沼)